

平成30年度
剣淵町学校施設長寿命化改修基本計画(案)

概 要 版

平成31年2月

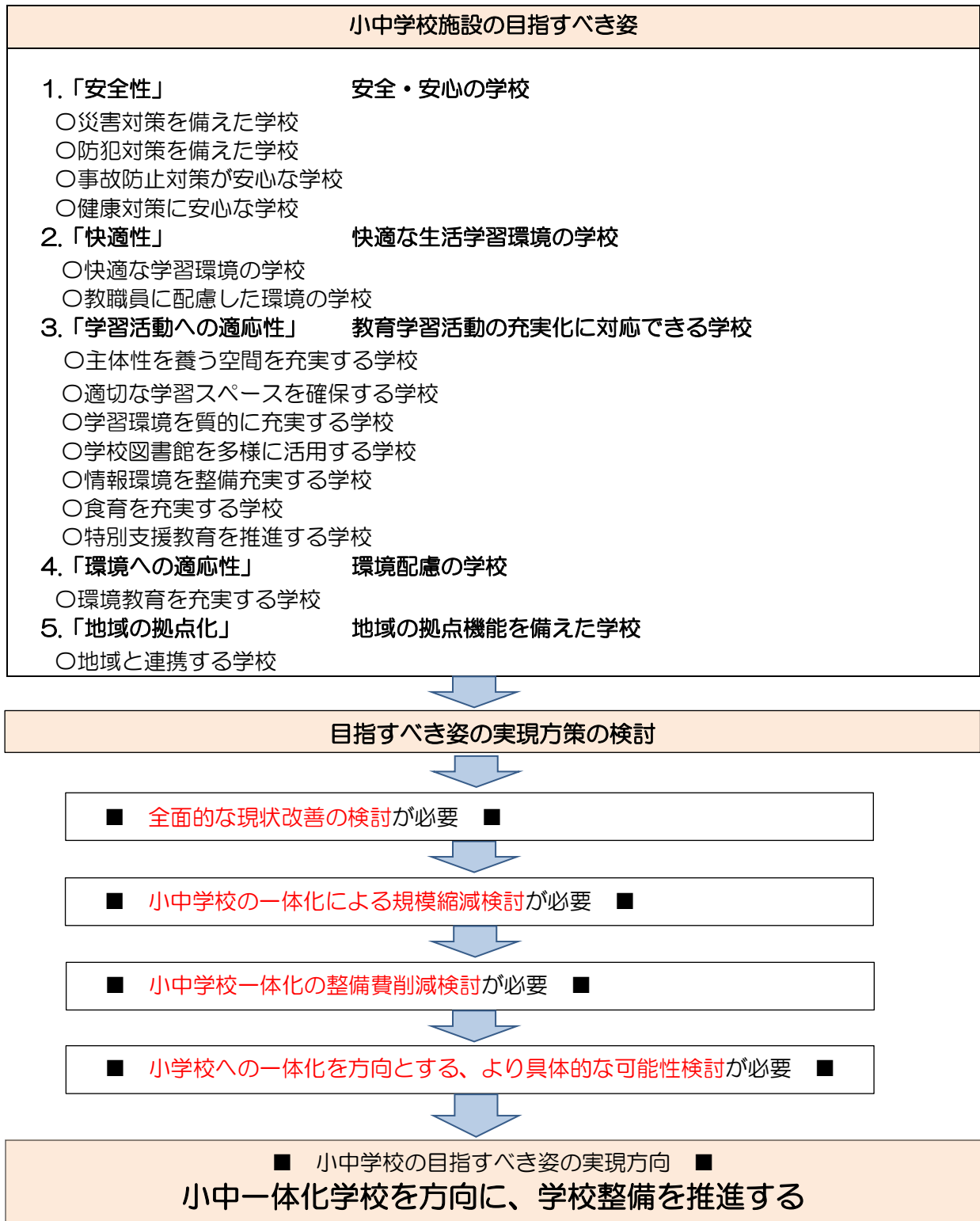
剣淵町教育委員会

計画の目的

剣淵町では、平成30年3月「剣淵町学校施設長寿命化計画」（以下、「学校長寿命化計画」とする）を策定し、学校施設整備の基本的な方針等を設定しています。
本計画は、上記計画を踏まえ、今後の重点的な取組みとしている小学校及び中学校の具体的な実施方向について協議し、基本計画を策定することを目的とします。

小学校・中学校の目指すべき姿と実現方策の検討

剣淵小学校・中学校について今後の取組みを通してその実現を目指すべき姿は、次のとおりとしその実現を目指すには〈全面的な現状改善〉が不可欠となっています。



小中一体化学校の概要

小中一体化学校は、現在から5年後（2013年）を想定するとともに一体化した学校状況を考慮したものとします。

(1) 学校形態

- ・ 剣淵小学校と剣淵中学校が一体化した「一体型小中連携学校」（以下「一体化学校」）とします。

(2) 想定生徒数／学級編成

- ・ 一体化学校の想定生徒数及び学級数は、現況から5年後を想定し、次のとおりとします。
- ・ 学級数は、現況と同じ小学校6学級中学校3学級、合計9学級として編成するものとします。

■H35年度想定生徒数／学級編成													
学校名		小学						中学			合計		
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年			
H35年度	児童数 生徒数	99	22	19	10	14	19	15	56	21	22	13	155
	学級数	6	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	9

(3) 特別支援学級編成

- ・ 特別支援学級については、開校時の対象児童数により決定されるが、現計画段階では小学校4学級、中学校3学級の計7学級を想定するものとします。

(4) 特別教室等編成

イ) 特別教室

- ・ 文科省における特別教室の設定は、学級数に応じ行われるが、小中一体化状況を効果的に活用する（小中の共同利用を積極的に検討する）こととし、教室設定を行うこととします。

ロ) 多目的教室及び少人数授業用教室

- ・ 多目的教室及び少人数授業用教室（少人数授業に対応した多目的教室を含む）を設けることとし、きめ細やかな教育環境を実現するための教室設定を行うこととします。

■本計画における特別教室設定														
	理科 室	生活 科室	音楽 室	図工 室	美術 室	技術 室	家庭 科室	外国 語室	視聴 覚室	IT 1-タ ー室	図書 室	児童 生徒 会室	教育 相談 室	進路 指導 室
小学校	1	/	1	1	/	/	1	/	/	1	1	1	1	/
中学校	1	/	1	/	1	1	1	/	/	1	1	1	1	1
合計	2	0	2	1	1	1	2	0	0	2	2	2	1	1

(5) 管理形態

① 管理職

- ・ 本計画においては現況体制を基本に、次の設定とします。
校長2名 教頭2名 （*将来、学校形態の移行も想定される義務教育学校では、校長1名。）

② 教員数

- ・ 想定教職員数は、現状と同程度の想定、次のとおりとします。

■教職員数の5年後想定									
区分	剣淵小				剣淵中				小中合計
	教職員数	支援職員	業務・パート		教職員数	支援職員	業務・パート		
H35年度	19	14	3	2	15	12	1	2	34

学校整備の方針

ここでは、「目指すべき姿の実現方策の検討」を踏まえ、剣淵小学校の増改修による小中一体化学校整備検討案として整理します。

(1) 小中一体化学校の基本的な考え方

小中一体化する学校施設の基本的な考え方は、次のとおりとします。

- ① 小中一体化した教育活動に適した施設環境の確保
イ) 小学校及び中学校段階に対応した空間構成や施設機能、異学年交流の充実
ロ) 成長段階に応じた空間構成や教育環境に変化をつけるなどの工夫
ハ) 事故防止対策や学校用具家具の強度や寸法への配慮
- ② 小中一体化した学校運営に適した施設環境の確保
- ③ 地域ぐるみで子ども達の学びを支える場としての施設環境の確保

(2) 学校規模

本計画における学校規模の想定は、小学校は6学級、中学校は3学級を基本に、既存増改修の視点から小中学校一体化学校整備検討案を踏まえ、現在保有面積の削減も目標として設定することとします。

■小中一体化学校整備検討案					(単位：㎡)
	条件	校舎	屋体	備考	計
既存小学校	普通9学級 特別支援7学級	3,259	923	—	4,182
増築		2,352	376		2,728
計(B)		5,611	1,299	剣淵町武道館活用	6,910
B/A(既存小中学校合計)	%	82.7%	63.3%		78.2%

(3) 学校整備の基本方針

小中学校の目指すべき姿を踏まえ、具体的な学校整備の方針は次のとおりとします。

- ① 「安全性」 安全・安心の学校づくり
- ② 「快適性」 快適な生活学習環境の学校づくり
- ③ 「学習活動への適応性」 教育学習活動の充実化に対応できる学校づくり
- ④ 「環境への適応性」 環境配慮の学校づくり
- ⑤ 「地域の拠点化」 地域の拠点機能を備えた学校づくり

今後の方策

① 事業化に向けた取組み

小中一体化校実現に向けては、さらなる取り組みが必要となります。ここでは、それら取組みについて整理しています。

イ) 目指すべき学校像の設定

小中一体化学校のあり方として「義務教育学校」か「小中併置校」かにより補助事業の扱いが異なります。小中一貫教育の推進の延長線上の協議として一体化校における学校像（教育システムのあり方）を設定する必要があります。

ロ) 目指す一体化学校の計画条件等の設定

必要とする学校空間や関係性のあり方は実現を目指す学校像によって異なり、それぞれに応じて設計等計画条件が異なることとなります。

ハ) 事業財源の検討

財政負担を軽減する取組とします。

② 今後のスケジュール

小中学校の今後整備改善については、剣淵町学校施設長寿命化計画では今後10年間の実施計画前期（～平成34年）に、給食センターも合わせ実施することとしています。

事業化に向けた取組みを整備の上、設計・工事へと続く取組みを進めて行くこととします。